

## 中学校 総合的な学習の時間 部会

部会長 福智町立赤池中学校校長 白石俊幸

実践者 川崎町立池尻中学校 武田倫明

### 1 研究主題 「社会へトライアル」—働く意義と自分への評価を求めて—

#### 2 主題設定の理由

(1) 人間としての生き方の指導は、進路指導の基本的なねらいでもある。また、特別活動の各内容においては、将来子どもたちが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人、職業人として自立していくことを目指すキャリア教育の視点に立った指導の充実が望まれている。本題材は、「学ぶことと働くことの意義の理解、進路適性の吟味と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の形成」について取り扱ったものである。

本町を含め田川郡にある多くの中学校で職場体験学習を実施している。職場体験学習は、自己理解を深め、職業の実像をつかみながら望ましい職業観・勤労観を身に付けたり、学ぶことや働くことの意義の理解及び関連性を把握したりするなど、学校の進路指導上において多くの効果が期待できる。しかし、課題として、生徒がお客様な存在になってしまうことやイベント的要素が色濃く、学年行事として単発的に完結してしまうことなどがあげられる。そこで、望ましい職業観・勤労観の内的価値形成を意図した学習の計画と実施を工夫したい。

(2) 中学校の第2学年で身近な人への職業調べを行い、将来の希望を実現させるためには適切な進路計画が必要であることを学んでいる。それから、第3学年の進路指導においては、働くことや学ぶことが自分の将来の生き方と深いつながりがあることを気づかせ、総合的な学習の時間では、職場体験を計画している。将来の夢や進路についてはまだ漠然とした考えをもつ生徒が多い中、職場体験を実施して職業や働くことの内容や特色を体感できることは、より深く広い情報を得る学習として大切だと考える。

(3) キャリア教育は子どもたちがそれぞれの発達段階に応じて、自己と働くこととを適切に関係付け、各発達段階における発達課題を達成できるよう取り組みを展開するところにその特質がある。本中学校では、「職業観・勤労観」の形成に関連する能力を、「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「職業理解能力」、「役割能力・認識能力」の4つの能力領域に大別し、段階において身に付けることが期待される能力・態度を示している。これを活用して、本題材で重点を置いた発達課題と育成すべき能力・態度を明確にして単元構成をした。

また、特別活動、総合的な学習の時間の学習活動のいずれにおいても体験活動の充実、生き方について考え、深めることが求められている。総合的な学習の時間に行われる職場体験活動は社会とのかかわりを考える学習として行われると同時に、特別活動の勤労生産・奉仕行事と同様の成果も期待できる。職業や進路にかかわる啓発的な体験として、総合的な学習の時間に行われる職場体験と関連させて、学級活動において事前事後の指導を充

実させたい。

具体的に学級活動における事前学習では、職業の内容や特色を理解させる題材により、職場体験学習のねらいや意義、留意事項などについて理解させたい。それから、体験後の学習では、体験中に分かったことや考えたことなどをまとめさせて体験を内面化したり、まとめや発表を通じて、職業の知識やその役割への理解を深めながら、体験したことを共有することができる時間を設定したいと考える。また、職業や働くことの価値を考える過程はとても大切である。これまで学んだ職業情報や職業の特色などを考えつつ、自分なりに職業の価値について考えをまとめさせたい。各学習では小集団（4人グループ）による話し合いの場面を設定して、多様な考えに触れながら、希望する職業や体験する職業について考えていくように工夫する。

### 3 主題の意味

生徒一人一人は、自分の内部環境（自分の強みや弱み）を自己表現することは苦手である。しかし、少集団の仲間が肯定的に互いを見ることによって自己理解が深まり、内部環境を改めて認識できる。今回は、その内部環境を自己アピール表にまとめて、自分の能力が活動の中で発揮できているか否かを外部の方々から評価されることにより、自分の良さや自己有用感を高めることができると考えられる。又、克服すべき課題も見えてくると考えられ、自分の進路を決定するときの大きな力になると思われる。

### 4 研究の目標

- ・ 職業を理解し、職業の内容や特色を考え、その職業の適性等について理解を深める。
- ・ 職場体験に向けての情報を整理して、職場体験に対する心構えや準備を確認する。
- ・ 職業に関する多様な価値を比較し、自分なりの職業に対する考えをまとめる。

### 5 研究仮説

職場体験学習において、自己アピール表と評価シートを活用することにより、生徒は、学ぶことや働くことの意義及び自己や事業所に対する理解を深め、職業に関する知識や技術、社会的なルールやマナー、コミュニケーション能力を身に付けるであろう。また、自己の個性や興味・関心を生かした進路や生き方を考え、その実現に向けての課題を解決しようとする態度を身に付けるであろう

### 6 研究の計画（授業の計画）

（1）単元 「社会へトライアル」ー働く意義と自分への評価を求めてー

（2）単元の目標及び指導計画

単元	職場体験学習	総時数	34	時期 3年1・2学期
単元の目標	○ 働いている人との交流を通して、基本的マナーや言葉遣いを身につけさせる。 （人間関係形成能力） ○ 職業に求められる視覚や実際に必要とされる知識・技術・技能を理解させる。 （情報収集能力）			

		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 働くことの意義や勤労の尊さを体得し、働く人々の思いに触れることで職業に関する関心・理解を深めさせる。(職業理解能力)</li> <li>○ 様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の行き方を考えさせる。(役割能力・認識能力)</li> </ul>		
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点
1	1	○ 職場体験学習のねらいを理解する。	体験する職場を決定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 職場体験から自分が学びたいことを考えさせる。</li> <li>② 職場の方が生徒を受け入れる際の気持ちを考えさせる。</li> </ul>
	1	○ 希望業種ごとにグループを編成し、具体的な希望体験先を絞る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個々の目的を明確にさせてグループをつくる。</li> <li>② 体験先リストを提示する。</li> </ul>
	1	○ 訪問希望職場に受け入れを依頼する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 依頼マニュアルを用意する。</li> <li>② 個別に予行指導を行った後、依頼させる。</li> <li>③ 所在地、担当者、交通機関等を確認させる。</li> </ul>
	2	○ 体験する職場について調べ、個人テーマ(自己アピール)を設ける。	体験する職場(職業)に関する情報を収集する	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個人の課題・テーマを設定させる。</li> <li>② 職場体験に対する自分の考えを表現させる。</li> </ul>
2	2	○ 職場体験の約束事項を再確認する。	直前の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 体験内容に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 服装, 持ち物</li> <li>・ 開始・終了時刻</li> <li>・ 交通手段, 弁当</li> </ul> </li> <li>② 安全, 緊急時の対応等に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体調不良で欠席の場合</li> <li>・ 通勤途上の事故の場合</li> <li>・ 体験中の事故の場合</li> </ul> </li> <li>③ マナー等に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挨拶, 言葉遣い</li> <li>・ 秘密保持の義務</li> </ul> </li> </ul>

	2	○体験内容や日程を確認して、体験の心構えをもつ。	体験職場を事前訪問する	① 事前訪問マニュアルを用意する。
	12	○自分の能力を発揮し活動する。	職場実習	・保育所（一般事業所） ・一般事業所（保育所）
3	4	○職場体験学習をふり返る。 ・抽象的な体験を具体的な自分の力に変える。 ・自分のテーマに対する結論を導く。	個人レポートを作成する（作文、お礼状作成含）	① 事前学習で収集した情報と、体験で得た情報との異同を考えさせる。 ② 体験学習をとおして自分自身の中での変化を盛り込ませる。 ③ 表現方法の工夫より、まず内容を大切にさせる。
4	4	○「私たち」が職場体験学習から得たものをまとめる。	グループで、発表用資料を作成する	① 「私たち」が教えられたこと、考えさせられたことを意識させる。
	2	○効果を考えながら発表の準備を行う。	発表会に備える	① 体験全体が理解できる構成を意識させる。 ② 変容ぶりが分かる発表内容を意識させる。
5	2	○個々の生徒の活動内容の共有化を図る。	職場体験学習の成果発表会を開く	① 複数の生徒に共通に見られる内面の変化を自覚させる。 ② 校外に発表会開催を案内（招待）する ・体験受け入れ先 ・保護者、支援組織 ・校区内の小学校
	1	○体験学習の成果の内面化を図る。	学習のまとめ	① 学校のテーマ・個人のテーマに照らして、自分の成長を意識させ、これからの努力目標を掲げさせる。

## 7 研究のまとめ

生徒の体験先での体験への興味・関心を重視し、職場体験への期待を高めるだけの授業展開となっていたが、自分の持っている能力をフルに発揮する活動ができたとともに職業を理解し、職業の内容や特色を考え、その職業の適性等について理解を深めることができた。又、自分の指摘された課題についても素直に受け止め克服しようとしている。

## 8 成果と今後の課題

- 職業についての見方や考え方を深めるとともに自分の適性への理解を深めることができた。
- 受業所と生徒に「何をさせるのか」「どこまでさせるのか」といった部分に関して綿密な打ち合わせが必要である。